

令和7年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【勿来カトリック幼稚園】

当幼稚園における令和7年度事業内容について、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画(=Plan)	実行(=Do) / 評価(=Check)	改善(=Action)
目的 (園則より)	この幼稚園は学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育しキリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人の健康と特性との基礎を作り家庭的教育を補うことを保育の目的とする。	本園は、神様からいただいた人としての命を尊重し、互いに助け合い、分かち合い、許し合う心を育て、人間関係の輪を深め、平和的な心を養っています。 家庭・保育者と共に心のかよった保育を目指して、「感動する心」「感謝する心」「祈る心」「共に生きる力」を大切にして充実した保育を行ってきた。子どもひとりひとりを愛し、個性を活かしたインクルーシブな保育も大切に充実した保育を行った。	令和8年度についても、同様の方針で教育目標に沿って保育を進めていく。 園児数が減少の一途の中でも少人数ならではの良さや温かさをアピールし一定の定員数を確保できるよう、取り組んでいく。
年間行事について	積み重ねと継続を大切に各行事を挙げる。予定の詳細については、各幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	これまで同様感染症に対する正しい知識と感染拡大防止のための意識を持ち、手洗い・うがい・消毒等の徹底をしながら、日常保育や行事を遂行した。また、近年の暑さに対する対策も同時に行い、行事だけでなく通常の保育も工夫しながら行った。行事内容については、その都度検討し子どもたちの経験値を高めながら楽しめる活動になるよう努めた。 ・夕涼み会 (いちごぐみ、未就園児を招待し園の周知を行う。) ・運動会 (暑さ対策のため、9月から10月に変更し、振替休日を設けず、平日に実施、いちごぐみ、未就園児招待) ・土曜参観日 (振替休日を設けずに平日に実施、預かり保育実施) ・クリスマスお遊戯会 (学年を分けて全学年、1日で実施。振替休日を設けず、平日に実施) ・クリスマス会 (いちごぐみ、未就園児招待) ・教会訪問(全園児で実施、希望保護者参加) ・食育講座(全園児で実施)	令和8年度も年間行事計画作成にあたり、教職員と前年の振り返りや保護者アンケートの結果をもとに協議・決定していく。 ・運動会 (保護者アンケートにより、土曜日に実施。) ・食育講座 (希望保護者参加、いちごぐみ希望者参加) ・JSS スイミング (予定回数は違うが、全学年実施。) ・いちごぐみ・園庭開放のスタートを4月からに早める。

		・3 学期保育相談 (日程を参観日後にずらし、時短保育を通常保育とした) ・地域社会との交流 (いわきおどりに参加、さくら保険事務所さんと環境整備活動、夕涼み会で交流を行う。) ・いちごぐみ、園庭開放を2 回増やして実施。	
新規事業について	A ホール天井照明器具取替工事	Aは予定通り実施 ・ホール天井照明が消える等、不具合があったが、LED 照明に交換してからは、不具合もなく、安定的な保育環境を整えることができている。	耐性のあるものではあるが、今後も点検しながら安全管理に努めていく。
	B 園庭アンパンマン遊具塗料塗り替え工事	Bは予定通り実施 ・経年劣化により塗料が剥がれてしまったところや日焼けして薄くなっているところがあったが、工事後は見違えるほどきれいになり、子どもたちも喜んで遊んでいる。	今後も点検を怠らずに、安全に遊具で遊ぶよう、環境整備に努めていく。
	C アンパンマン以外遊具塗料塗替え工事	C は予定通り実施 ・遊具や壁上の人形の色褪せなどが目立ってきたため保育環境の景観を整える工事を行った。遊具の色合いがはっきりし、敷地外からもはっきり見えるようになり景観も良くなった。気持ちよく遊ぶ姿が見られるようになった。	遊具の安全な使い方を指導していきながら、点検を怠らず安心して遊べるような環境を整備していく。
	D 食育講座	D は予定通り実施 ・食の豊かな時代において、偏食の園児が多く見られるため、食の大切さを学んだ。実施後、食材の栄養に興味を持って給食を食べる姿も見られるようになった。	毎日の給食でも食材の栄養を伝えながら、日々の保育の中でも継続的に指導していきたい。令和8 年度は、保護者にも呼びかけ関心を深めていきたい。
教職員の資質向上について (研修等への参加含む)	園内外の研修に参加し、園児の保育の向上に力を注ぐ	・特性のある子どもへの理解のため、スクールカウンセラーの派遣事業や療育先の訪問を受け、支援の仕方など適切な助言をいただき、また、共通理解を持つことができ、日々の保育に活かすことができた。	特性のある子ひとりひとりに適切な対応ができるよう、今後も療育先や専門機関との連携をとりながら関わられるようにしていく。保育の中でも気になる子に対してもスクールカウンセラーの助言をいただきながら関わっていく。専門的な研修にも積極的に参加し、特性のある子への学びを充実させていきたい。

		・法人全体の学園研修に全員で参加することで、法人職員としての意識を高められた。また、姉妹園の教職員とも情報交換ができ、交流を深め、気持ちを新たに職務に励むことができた。	次年度も継続して研修に参加し、意識を高めていきたい。
		・カトリック研修に参加し、カトリック幼稚園の職員であることを改めて意識し、カトリックの教えを子どもたちに伝える大切さを感じることが出来た。実際の保育現場での教材を体験することで、伝え方の工夫も知ることができ、貴重な研修となった。	次年度も継続して研修に参加し、宗教教育について改めて理解を深めていきたい。
		・交通教室、防犯教室、防災訓練を通し危機管理の知識を深めることが出来た。シミュレーションをすることで、どのような危険が想定できるかなど、再確認できた。	次年度も、反省点を活かしながら、新たな場面での演習を行っていき、どんな場面でも安全を確保できるように努めていく。
		・いわき市主催の各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に務めた。また、研修会に参加することで、他園や小学校の教員との情報交換などができ、実りあるものとなっている。	次年度も、積極的に参加し、職員間での情報交換や共通理解を図っていき、保育現場で活かしていきたい。

2. 総括

1. 少人数ならではの温かい雰囲気を大切に、保護者とも連携を取りながら安心安全に日々の保育、行事等を執り行うことができた。
2. カトリック幼稚園として、「心の育ち」を大切に保育を行ってきた。特性のある子がクラスにいる中で、友達を思いやり、助け合う姿がみられるようになり、互いに愛し合う、共に生きる力、を普段の環境の中で当たり前に行う様子に「心の育ち」が育まれていることが実感できた。
3. 職員間の報・連・相を大切にし、専任・非常勤ともに声を掛け合い、伝えたり確認したりすることで、円満な職員環境を整えることが出来た。
4. 週に1回は必ず終礼を行い、報告・連絡・相談を大切にしてきた。非常勤ともに声をかけあい、確認しながら進めることができた。主幹教諭が産・育休に入り、仕事を分担し協力しながら、行事においても予定通り行うことができた。
5. 事務局により、補助金手続きや就労環境、その他の事案等について速やかに解決策を提示し、ご助言いただけることで円滑に園運営を行うことが出来た。
6. 行事後の預かり保育実施、時短保育を減らすなど保護者の就労支援を含め、大きな行事を平日にしたが、保護者アンケートにより、土曜実施を求める行事もあった。保護者のニーズにも応えながら、今後の保育活動を進めていきたい。
7. 勿来カトリック幼稚園の存在は祖父母世代には広く知られているが、保護者世代の認知度が低い傾向がある。そのため、外部発信として「いわき踊り」へ参加し、園のアピール活動を積極的に行った。直接的に園児獲得には見込まれなかったが、今後も外部への向けての積極的発信を行い、認知度を上げていきたい。ホームページからの来園も多く、ブログ更新は保護者からも好評であるが、滞ってしまう事もあった。SNSでの情報収集が主になっている現状を踏まえ、今後もホームページでの発信を行っていききたい。なお、引き続き在園児・卒園児の子どもたちはもちろん保護者の方に“勿来カトリック幼稚園で良かった”という生きた声を外部に発信してもらえよう職員一同、努めていきたい。